

デザインを依頼するとき

うまくいかない 3つの理由

デザイン指示の方法や
イメージをつたえるコツ

印刷会社などにパンフレットやチラシのデザインを依頼したけど、
思い通りにならなかったり、なんとなくしっくりこなかった事って
ありませんか？

我々もたまにそんなループに陥ってしまったりすることもあります。

そこでなぜそうなるのかを検証して、皆さまがそういった
つらい思いをしないためにポイントをまとめることにしました。

これまでうまくいかなかった方、これから取り組もうとしている方の
お役に立てれば嬉しいです。

それでは行きましょう！>

あるある事例としてよく耳にするのは…

思っていたイメージとぜんぜん違う…

デザイン修正を依頼してもなおらない…

言ったとおりになっているけど、もっと良くならないの… などなど…

それが起こる原因として、大きく分けると **3つの理由が潜んでいるのです。**

理由1 思い描くイメージは十人十色

よく「カッコよく」「かわいい感じ」「ポップな感じ」「クールな感じ」といったオーダーをつついしちやいがちになります。

わたし自身もデザイナーに依頼する際、つついってしまう表現です。

しかし思っているイメージが依頼者とデザイナーでギャップが明確にでたとき、悲劇は訪れます。

理由2 具体的だからこそうまくいかない

この不満の理由によくある例は「言ったとおりにしかしあがらない」「もう少し、アレンジを加えてほしいかった」などです。

「このタイトルは赤、リード分は緑色、大きさは1.5倍くらい」と指示はしたけど、おかしかったら気を利かせて別の案にしてほしい…なんてことはよく聞く事象です。

これも理由①に少し重なる点もあるのですが、依頼者からそこまで具体的に指示があるということは好みのギャップだなとデザイナーが捉えることで起こってしまう事象です。

理由3 デザイナーに全てまかせている

「デザイナーさんのセンスにまかせます!」「デザインの専門家だからいいように!」「いい感じで!」といったオーダーはよくある話です。

デザイナーは原稿があれば、それなりに見栄える制作物を創り出すスキルをもっています。

ただそうすると依頼者の心の中にある目的やねらいに合致したものやイメージしていたものと違ったものに仕上がってしまうリスクが大きくなってしまいます。

理由1～3にあげた事象はデザイン制作の現場でよく起こってしまう事故です。

それを回避するためにはどうすればいいのでしょうか? >

そこで、

デザイン指示の方法やイメージをつたえるコツを紹介したいと思います。

—— コツ1 ——

制作をつくる目的・ターゲット・シチュエーションを 依頼者とデザイナーが共有する

その制作物が誰に向けて、何のために、いつ見られるかなどの情報をデザイナーが理解することで、思いつきやパッションだけではなく、意図を汲み取ったうえ、根拠をベースに建設的に目的に沿ったデザインを考え、提案することが可能になります。

おそらくそれが皆さまの望んでいるデザイナーへ依頼する本当の価値だと思います。

—— コツ2 ——

なぜそう思ったかをつたえる

具体的な指示をした際に、思った意図の通りにならなかった場合も「ここは見る人に一番目立たせたいから」「ここが一番理解してほしいとこだから」といった風にどういう意図があるかをしっかり伝えることで「それならこうしたほうが伝わりますよ」とか今までの経験やノウハウをデザイナーが提示してくれる事があります。せっかくデザイナーに依頼するのであれば是非そういった「匠の技」をつかってもらいたいですよね。

—— コツ3 ——

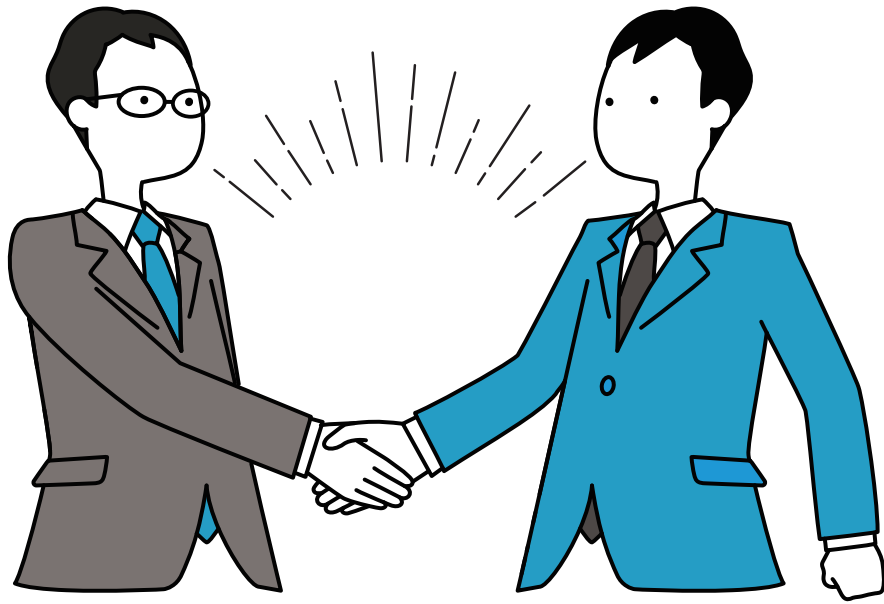
イメージは可視化された見本などで共有する

自身の頭の中のイメージを人につたえるために言語化するのは非常に難しい作業です。

そこで、便利なのが見本などの具現化された見本です。見本収集をクライアントに依頼することがありますが、同商品や同サービスなどの他社見本しか集まらないことが多いです。

ぜんぜん違うジャンルや商品・サービスでも良いので「こんなイメージをしている」という見本を探すことが良いです。何の関係もなくともOKです。雑誌の1ページでも良いのです。

あくまでもイメージの可視化が目的ですから。そうすることで少しワクワクしてきませんか？



BEST PARTNER

デザインは見た目だけではなく、
目的を達成するために根拠をもって、依頼者の思いをカタチにする手段です。
デザインのプロであるデザイナーは依頼者の目的や思いを可視化させるために、
適切なコミュニケーションを通じて依頼者を成功へ導く存在です。

可能であれば制作初期の段階で多くのコミュニケーションを通じて、
目的や意図、個人的な思いなど多くの情報を伝えるために
対面でのミーティングをすることをおすすめします。

やはり人と人のコミュニケーションです。
相性や好みなどもあるかと思います。
あなたにとって最適なパートナーを探してください。